

まずはパリコレ

第5期 OB 松山 昌司

「来週はパリコレだから」——
当時、就職活動中の私にとっては衝撃的な話であり、この一言が、私を服の世界へ誘ったと言っても過言ではない。

なお、パリコレとは、パリ・コレクションの略であり、毎年2回、フランスのパリで開催される、オートクチュール（高級注文服）、プレタポルテ（高級既製服）などの新作デザイン発表会を指す。この「来週はパリコレだから」と言った張本人は、現在、私の隣の課で働いている。年齢は43歳。趣味は、筋トレ、日サロである。

さて、先述のとおり、「パリコレ」というよくわからない世界を体験したくて、今の会社に入ったと言っても過言ではない。運よくパリコレに出展しているブランドの担当課に配属されたが、下積みということで3年半はデスクワークの日々だった。じっとしていることが苦手な私にとって、この3年半は苦痛の日々であったが、基礎固めには最高のカリキュラムであったことは間違いない。



(上) 著者近影。会社の運動会で優勝した際に胴上げされる著者
(下) 現役ゼミ生時代の著者。商ゼミ対抗ソフトボール大会に優勝し、同期とともに先生を胴上げする著者





パリコレに憧れ始めた著者の現役ゼミ生時代
(パンチパーマにニッカーボッカー姿)

その後、顔がヨーロッパには相応しくないということで、語学研修はフランスではなく、中国になった(先輩は皆、フランスかイタリアに行っている)。半年の中国語研修を経て、5年目にしてやっと営業になることができた。

しかし、簡単に「パリコレ」に行ける訳は無く、レディースブランドの国内生産の管理という「パリコレ」とは縁遠い仕事を担当することになった。得意先のアパレル会社に 足繁く通い、出張といえ

ば、国内出張で、全国に点在する縫製工場や、ニット工場を訪問する。服作りの大変さ、作り手の情熱を日々肌で感じている。

「松山、再来週、パリ行ってこいや」——ある日、突然、上司から言われた。初の海外出張。「パリコレ」に一歩前進である。この年明けに、新しくフランスのブランドを担当することになった。もう一歩前進。今年中とは言わないが、何とかして行ってやろうと常に思いつつ、毎日頑張っております。



著者が先生を当日電話で呼びつけて開催を実現させた、同期(+α)会の二次会@恵比寿ガーデンプレイス(著者は左端)